

# 江北の四季

令和2年  
10月31日  
第31号



○十三夜も十五夜に続いていい月でした。

満月前の少し欠けた月を愛でるなんていうのは、日本人だけでしょね。十

五夜を見て十三夜を見ないのは縁起が悪いともいいますが、どうもこれは、江戸時代の吉原(遊里)で月見を口実に客に何度も来てもらうための遊女たちの営業戦略だったようです。

東日本では旧暦の十月十日に、「十日夜(とおかんや)」といって、その年の収穫に感謝し来年の豊穡を願う行事があるようですが、八月の十五夜、九月の十三夜とこの十月の十日夜の月を三月見とって、この三日間が晴れてお月見ができると非常に縁起がいいそうです。これも吉原の営業戦略だったのかもしれませんが、今年三回目のお月見をしませんか。十一月二十四日(火)が旧暦の十月十日となります。



丸く刈り込んだドウダンツツジ

○第五十三候、霜降、次候、霎時施(しぐれときどきほどこす)。

時雨が来る時期です。晩秋から初冬にかけて、冷たい俄か雨が降ります。

時雨が降りますと、今でも思い出すのは、子供の頃の秋の農作業です。この時期になると、両親は夜の明ける前の暗い内から田んぼに出て、カンテラ(カーバイド)から発生させるアセチレン

を燃料としたランプ)の光を頼りに昨日刈った稲の脱穀作業をします。そして朝食の後、籾干しです。稲藁でつくった菰や筵を敷いてその上に籾



マユミの実



小菊が咲き出しました

初しぐれ猿も小蓑をほしげ也

芭蕉

を広げて干します。太陽が高く昇り、稲に降りた露が消えると稲刈りです。夕方には東にした稲を一カ所に集めて翌日の脱穀に備えます。十月から十一月にかけては毎日がこの繰り返しですが、そこに時々、時雨がやってきます。現在のようにはスマホで雨雲をチェックというこの時代です。時雨は急にやってきます。空が暗くなると大変、干した籾を大急ぎで片付けなければなりません。このときばかりは子供も遊びどころではありません、必死で手伝いました。この時期、時雨が来ると、なぜかこのときのことを懐かしく思い出します。

時雨というとき雨忌ですね。松尾芭蕉は旧暦十月十二日に五十一歳で亡くなりました。この時期は時雨の多い季節であることと、芭

蕉が時雨を好んで俳句に用いたことにちなみ、この日は時雨忌と呼ばれます。芭蕉のお墓がある大津市義仲寺では新暦の十一月第二土曜日に法要と句会があるようです。

十月初めから長浜市内を一匹のはぐれ猿があちこちと移動していますが、早く山へ帰ってほしいものです。冷たい時雨に軒先をとられてはかないません。

芭蕉の秋の句をもう二つ

菊の香や奈良には古き仏達

秋深き隣は何をする人ぞ



立華正風体

チャ、ベニバナトキワマンサク、ススキ、リンドウ、ホトトギス、スギ、アセビ、コギク、タマシダ ☆花展の花を考えているのですが、なかなか構想がまとまりません。お茶の花は珍しきかと試しに立華正風体にしてみましたが、寂

しい花になってしまいました。コロナ禍で縮小になりましたが、支所になっての初めての花展ですので、明るく元気な花にしたいのですが……。困りましたねえ。



蜜柑の色づきがよくなりましたが花には……。



薔薇の実なら面白いかもしれせん。



サンシユユの実  
は新風体  
に使える  
かもしれ  
ません。



ツワブキは水揚げに注意が必要ですね。



ツワブキの生花正風体

☆ツワブキ(石路、艶路)

ツワブキの由来は、艶のある葉を持ったフキ(艶葉路 つやはぶき)からきたらしい。常緑の多年草で日陰でもよく育ち、家の北側に植えています。花の少ない晩秋から初冬に小さな花を咲かせます。生花正風体によく似合、擬宝珠や紫苑と同じように生けます。今朝一番に採って、表葉遣いにしました。

